防災教育チャレンジプラン　2007

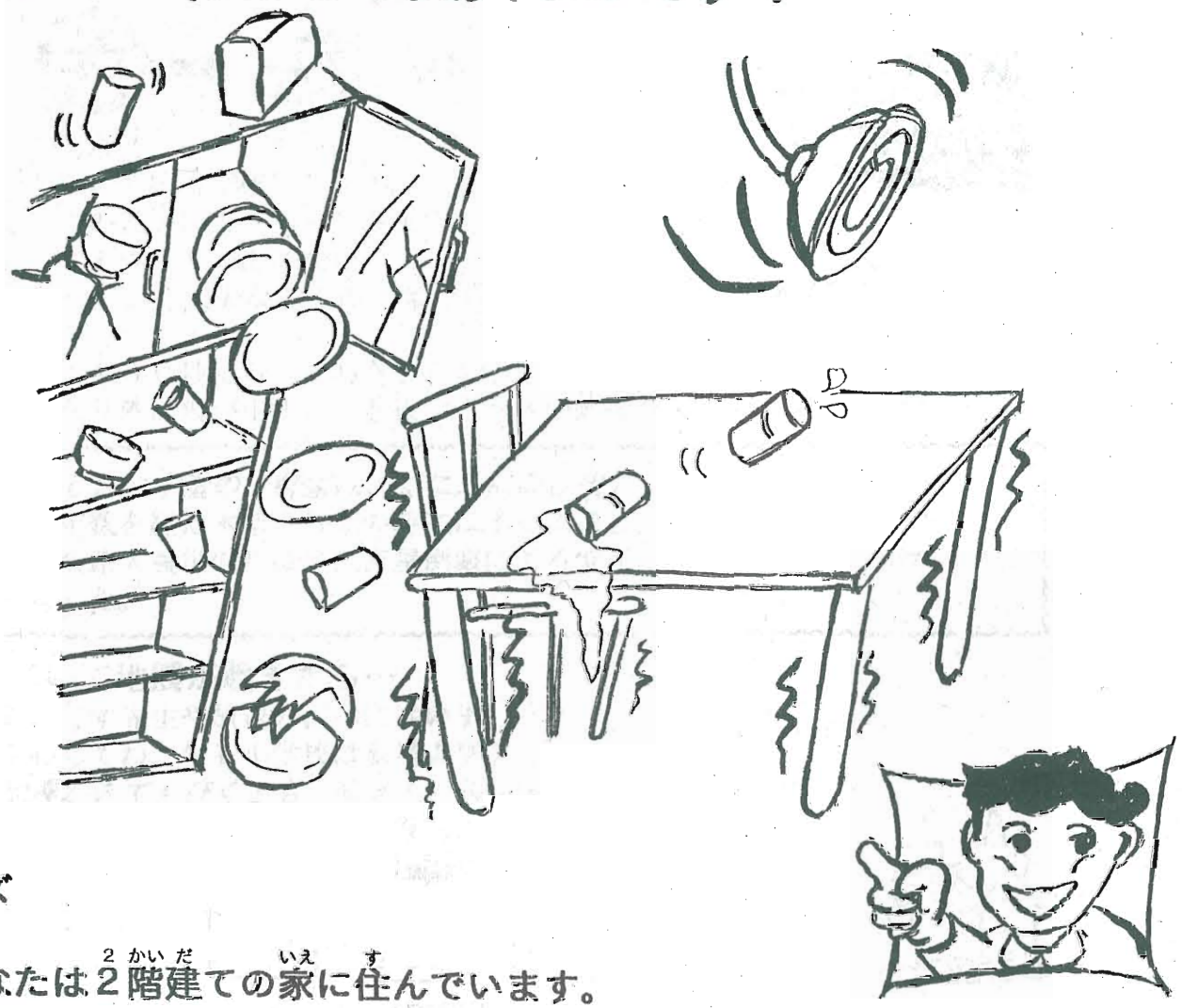
生石小学校の取り組み　愛媛松山

自分の身を守る「はぶやま」防災プラン

～協力・協賛団体～
松山市生石公民館
松山市ＰＴＡ連合会
赤い羽根募金（資金提供）
生石小学校ＰＴＡ
生石保育園
おはなしの会
ＪＡＲＬ愛媛支部
愛媛大学防災センター
ＲＮＢ南海放送・ＥＡＴ愛媛朝日テレビ
毎日新聞松山支局・ＮＨＫ松山放送局

人の命を奪うのは・・・地震ではないのです！

地震によっておこる火災なのです！



クイズ

あなたは2階建ての家に住んでいます。

地震が起こりました！さて、あなたはどうする？？

1、家の中の机などのがんじょうな物の下でじっと待つ。

2、落下物に気をつけながら、家の外に出る。

＜生石小学校　防災教育 はぶやまプランＮＯ１＞

家にいて地震がおきたら…

①火を消します。ひねる→閉める→切る

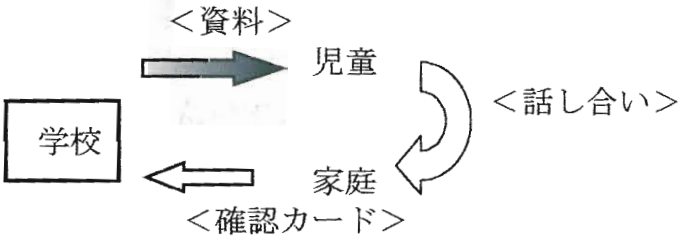
たばこ　　ガス　　アイロン

②戸をあけて出口を確保します。
③家の中の安全地帯へ滑り込みます。
④あわてて外にとび出さない。
⑤マンションや丈夫な造りのお家ならじっと揺れがおさまるまで待ち、避難しましょう。
長くても６０秒ぐらいでおさまります。
いきなり外に飛び出すと、看板やガラスの破片がふってきて危険です。

> ***ただし古い木造の一軒家はすぐに外に飛び出せ***
> （築年数を経た木造一軒家の時にはすぐに飛び出すようにしましょう。）
> 阪神淡路大震災の時には、家屋倒壊による焼死でなくなられた方がたくさんいました。

学校にいて地震が起きたら…

①あわてず先生や放送の指示に従いましょう。
②安心してね、生石小学校は耐震工事をしています。
地震がきてもびくともしません。大丈夫



おうちで　話し合ってください。

キ　リ　ト　リ

話し合ったら　この紙を学級担任に出してください。（はぶやまプランＮＯ１）

話し合いました。　　（　　）年（　　）組　児童氏名

＜生石小学校　防災教育 はぶやまプランＮＯ２＞

れきし　　科学　　ちいき　　いのち　　そなえ

生石公民館　関谷館長さん　児童全員に「ツナミ」について語る！！

「享保（きょうほ）年間（徳川吉宗）のじだいに、吉田浜で実際にあったツナミについてはなしていただきました。歴史から学ぶことは多いです。」

館長さんが小さいときに、おじいさんから聞いた話を、覚えていたことがこのお勉強のきっかけです。

○ツナミを物語る証拠が南吉田公民館の西にありました。
一度記念碑（きねんひを）見学しておきましょう。

○どのような記念碑で、どんなことが書かれてあるか調べてみるのも、夏休み自由研究になりますよ。

○校区の写真をもとにツナミをよそうしてみました。

ちかよってみると…

むかしツナミがきて、たくさんのかたがなくなったきねんひ

わかったこと

むかしツナミがきて、に見おそれ、たくさんのかたがなくなりました。田んぼが塩水につかり、大水のため、お米がとれずうえ死にしてしまいました。

ツナミがきそうなら

①とにかく 海岸(うみ)からはなれろ
②たかいところににげろ
③マンション→非常かいだんにのぼれ
④近くに山→のぼれ
⑤二階の家→二階にあがれ
⑥学校→3階・屋上にあがれ

もし学校にいてツナミがきたら…

○あわてず先生や放送の指示に従いましょう。３階ににげればＯＫです。 安心してね、

※ 必ず　話し合ってください。算数１００点とることよりも重要かも知れません。
※感想や要望があればかいてください。要望にお応えする防災学習こそ重要です。
※プランＮＯ１では、この学習にたいするコメントをいただきました。ありがとうございました。例：次回は地震に備えた非常品を教えてください。等

キ　リ　ト　リ

話し合ったら　この紙を学級担任に出してください。（はぶやまプランＮＯ２）

話し合いました。　　（　　）年（　　）組　児童氏名

感想や要望などがありましたらおかきください。おねがしいます。

＜生石小学校　防災教育 はぶやまプランＮＯ２＞

生石小学校のみなさんは「ツナミ」をしっていますか。

問題（もんだい）ツナミ予報（よほう）や警報（けいほう）がでればどうしますか。

① 海・海岸（かいがん）にいってツナミがくるのをみる。

② できるだけ　かいがんからはなれ　たかいところにのぼる。

どちらが正しいのでしょう。 ----------▷ □

いつもイラストは大西先生がかいています。ありがとうと言っておいてね。

＜生石小学校　防災教育 はぶやまプランＮＯ３＞

重要　れきし　科学　ちいき　いのち　そなえ

松山気象台の防災担当の方にききました。

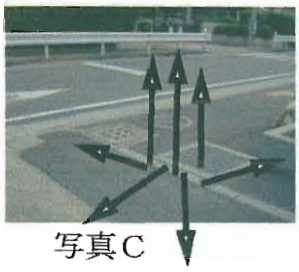
＜覚えよう！　雨がコップいっぱい５０ミリ＞

平地では、雨が１時間に５０ｍｍ　３時間に１００ｍｍもふるおそれがあるとき気象台では、その地方に警報が出るそうです。

◎１時間に５０ｍｍとは、砂遊びなどで家の外にだしておいたコーヒーカップに急に雨水がいっぱいたまる量だということをはなしてください。写真Ａ

写真Ａ

写真Ｂ



写真Ｃ

急にふり始めると、通学路横の川（側溝）があふれ道路が水浸しになります。写真Ｂ
また、マンホールや道路の下にある小川があふれ水が吹き出だします。　写真Ｃ

おうちのかたへ　お子様に必ずコップいっぱいの水のことを例にして伝えてください。命に関わりますので…　**指標は５０ｍｍです。**

急にコップいっぱい水がたまるような雨がふると、川があふれるよ。水に足をとられるよ。注意して学校から帰るのよ。写真Ｃのようなところから水があふれていたら、注意してね。よる、家に帰るとき、写真Ｂのような通学路があれば、くらいから、注意しようね。流されるよ、おぼれるよ、命はひとつだからね…

もっと知りたい方に：気象台では、「平地では１時間に５０㎜（５㎝）３時間で１００㎜（１０㎝）の雨が降ると予想されるなら警報をだします。」と言われました。<u>２４時間に２００㎜をこえる雨がふると、土砂災害が急に増えることを３０年前に校長先生は知りました。いまでも「２００ｍｍ」という数字をおぼえ、暮らしに生かしています。</u>　生石地区は校区が大変ひろく低地ですので、近くの川があふれることも予想されます。「大雨警報」では登校させますが、教師は危険が予測される場所に出向き安全に通学できるよう、また安全に下校できる万全をつくします。通学路と用水路、水路にはとくに注意させてください。生石地区は、大雨の場合心配される場所がいっぱいです。

※感想や要望があればかいてください。要望にお応えする防災学習こそ重要です。

キ　リ　ト　リ

話し合ったら　この紙を学級担任に出してください。（はぶやまプランＮＯ３）
「要望を次のプランに生かす」それが「はぶ山プラン」です。
話し合いました。　（　　）年（　　）組　児童氏名

＜生石小学校　防災教育 はぶやまプランＮＯ３＞

梅雨（つゆ）のきせつです。みなさんは「大雨」でびしょぬれになったことはありませんか。大雨について知っておくと、役に立つことがあります。

川のていぼうがきれたときや、うら山がくずれたときのようすをそうぞうして、大西先生が、みなさんのためにかきました。
「 ありがとう」といっておきましょう。

問題　大雨（おおあめ）とは、１時間にどのくらいふったときと決められていますか。
①運動場に雨水がたまりができ、遊べなくなったとき。
②お家の外のコーヒーコップに雨水がきゅうにいっぱいたまったとき。

←みずびたし

①

おや？コップに雨水がいっぱいになったぞ！？？

②

①か②　どちらだと思いますか。 ----------→ □

＜生石小学校　防災教育 はぶやまプランＮＯ４＞

これが今度の台風だ　台風が近づいています。

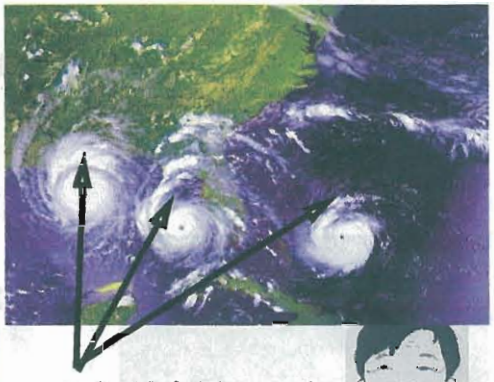
れきし　科学　ちいき　いのち　そなえ

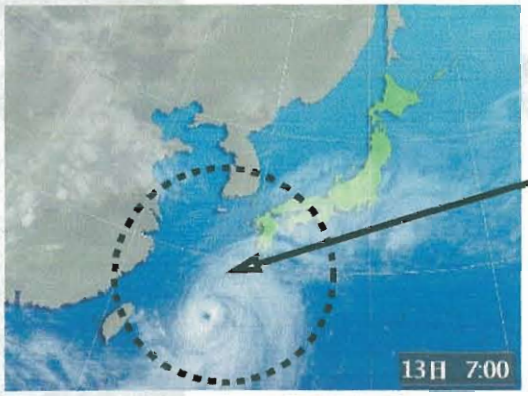
＜覚えよう！　雨がコップいっぱい５０ミリ＞

平地では、雨が１時間に５０ｍｍ　以上ふると大変であることをお知らせしました。台風が近づいています。台風はエネルギーのかたまりです。すごい力です。　A

写真Aは、アメリカに近づく台風（ハリケーン）です。アメリカでは大統領がテレビで「きをつけるように」と直接言うぐらい大変なことです。

写真Bは７月１４日に松山に来るかもしれない台風の写真です





B

これが台風の目といわれる部分です。

金曜日　朝登校時の写真です。

ーおうちのかたへお願いー

①災害予防については、直接お子様に語りかけてください。台風の目についても必ず話してください。目がハッキリするほどパワー強いと話してください。

②機会があれば風呂の水を抜いたとき、水が抜ける渦（うず）の穴をもとに説明してください。

③生石小では給食の時間などで説明したりしているので良く聞くのよと言っておいてください。

※正しい科学的知識が命を救うこともあります。日本には科学的に物を考える市民を育てるという風潮にかける部分があるように思えます。日本の義務教育段階では命に関係する災害教育を取り扱う分野が少ないので、生石小では給食の時間に説明したりしています。正しい科学的知識が命を救うこともあります。

※感想や要望があればかいてください。要望にお応えする防災学習こそ重要です。

---------- キ　リ　ト　リ ----------

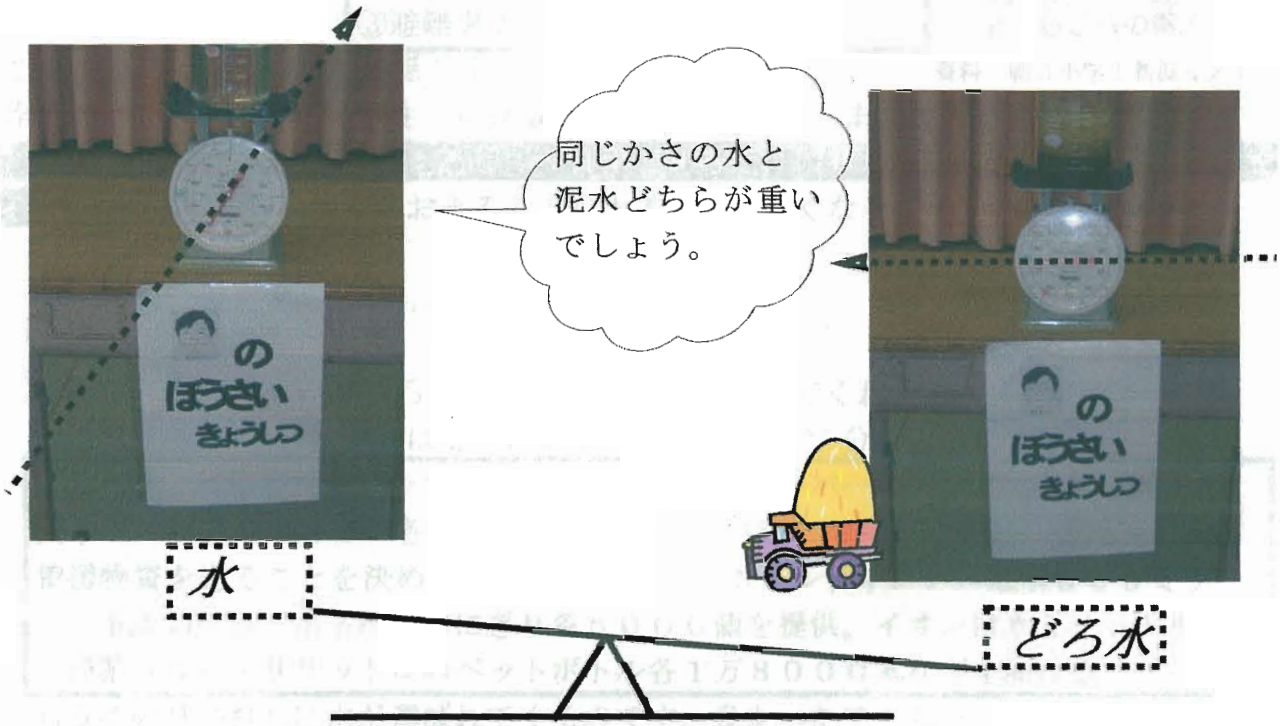
話し合ったら　この紙を学級担任に出してください。（はぶやまプランＮＯ４）
「要望を次のプランに生かす」それが「はぶ山プラン」です。
話し合いました。　（　　）年（　　）組　児童氏名

＜生石小学校　防災教育 はぶやまプランＮＯ４＞

必見泥水(どろみず)パワーはすごい。家をおしながす！！

梅雨（つゆ）のきせつです。雨がふらなくてこまっていた松山も　今はひと安心
台風（たいふう）が日本に近づいています。７月１４日（土曜日）は松山に近づくかも知れません。台風（たいふう）について知っておくと、役に立つことがあります。

それは　「どろみずは家を押し流すほどのパワーがあるということです。」
これは　土砂災害（どしゃさいがい）のこととかんけいがあります。



問題　大雨（おおあめ）になると、どろみずがでます。

どろ水と水ではどちらが、パワーがありますか。
①どろ水
②ふつうの水

①か②　どちらだと思いますか。

お家の方と話そう ＜生石小学校　防災教育 はぶやまプランＮＯ５＞

昨日の新潟地方（にいがたちほう）をおそった地震（じしん）から学ぶ

科学　　ちいき　　いのち　　そなえ

Ａ＜覚えよう！避難場所（ひなんばしょ）と自動販売機（じどうはんばいき）

Ｂ＜そなえよう　ペットボトルの水　２リットル３本＞

台風が松山にあまり「わるさ」をしなくて安心でした。

…と思っていたら新潟（にいがた）地方で大きな地震がありました。

今日は、全校の児童に

①水
②自動販売機（じどうはんばいき）
③避難場所（ひなんばしょ）

この３つについてついてお話しました。　　資料　朝日小学生新聞４／１１

昨日のニュースをみていて生石小児童に言っておくことはまず水だと思いました。

①そなえよう…日頃のそなえとして一日すごせるだけの非常用（ひじょうよう）の水をそなえましょう。

災害がおきると水が水道から出なくなります。

でも、大丈夫　一日もすれば助けてくれます。

いろいろなところから水をはこんでくれます。

次の文は毎日新聞７月 16 日 19 時 25 分の記事です。

＜中越沖地震＞救援物資の提供決定　スーパー、コンビニ各社＞

大手スーパーやコンビニ各社は１６日、新潟県柏崎市や刈羽村などの被災地に、救援物資を送ることを決めた。セブン＆アイ・ホールディングスは水５００ミリリットルのペットボトルとおにぎり各５０００個を提供。イオンは水２リットルと緑茶５００ミリリットルのペットボトル各１万８０００本などを届ける。

もうその日の打ちに水が運ばれてくるのです。良かったですね。

②みつけよう　マークつきの自動販売機（じどうはんば　いき）

知っているとためになります。

←　本日このようなはんばいきを見つけました。このはんばいきは、地震などさいがいがおこって、水が水道から出なくなったときや「のみ水」がないとき、右のようなはんばいきは無料（むりょう）となります。

③みつけよう　さいがいじ　ひなんばしょ（避難場所）

右のようなマークがある場所を見つけておくことも大切です。夏休み、旅行などで出かけるときに、その土地で右のような案内板があればさがし、お子様と話してください。「何か起きたとき、ここに行けば水や食べ物がくばられ、安心できるところだ。」と…いざというとき、ここにいけば、何とかなることを話し合ってください。

裏へ

①災害予防については、直接お子様に語りかけてください。

②自動販売機について

本日、清涼飲料会社に聞いてみると、「もし災害が起こり水などが必要になると、松山市では公民館に設置されている自動販売機の飲み物が無料で手に入ります。」といわれました。現実に先日の台風の時、松山近くのＴ市では災害対策本部では自動販売機が一時フリーになったそうです。

生石公民館に災害対応自動販売機があります。

「何かあったら生石公民館に行け　水をくれる」です。

③災害用看板について

公の場所が、災害時に避難する場所になります。

児童に「旅行などでどこかに出かけたとき、地震や台風などで家に帰れなくなったときはこの看板のある場所に行け」と言ってください。「衛星電話もあるはずだ。」と言ってください。

君たちへ　　問題　生石地区で地震などが起きたとき、どこに行けば水をもらうことができますか。

①生石公民館

②松山空港

①か②　どちらだと思いますか。

※感想や要望があればかいてください。要望にお応えする防災学習こそ重要です。

キ　リ　ト　リ

話し合ったら　この紙を学級担任に出してください。（はぶやまプランＮＯ５）

話し合いました。　　（　　）年（　　）組　児童氏名

感想

＜生石小学校　防災教育 はぶやまプランNO６＞ 保護者用

科学　　ちいき　　いのち　　そなえ　　７／２０

お家の方と話そう　夏休みにそろえよう　防災グッズ

日頃から準備させてください。

お金をかける必要はありません。日常の中から生活の中で入手することです。

「あれば便利なもの」より➡「なければこまるもの」を

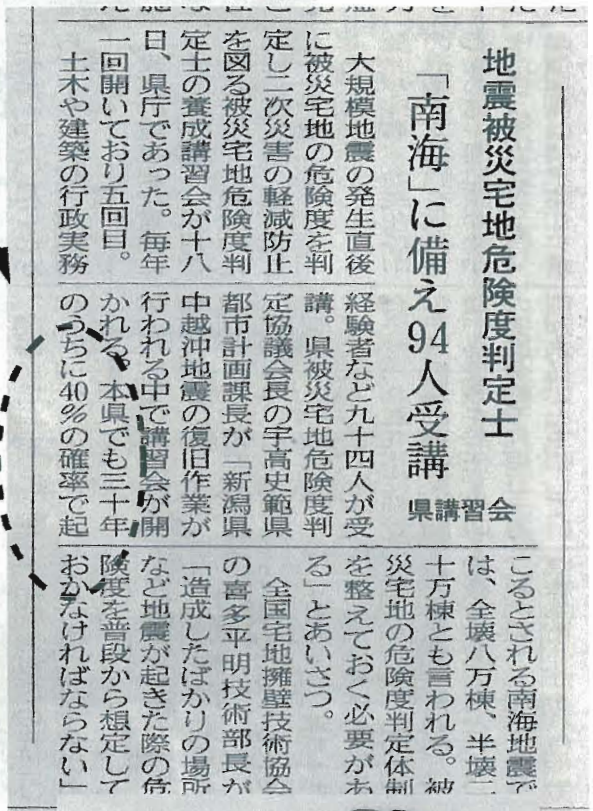
生石の児童が中年(40～50才)になるまでに、40％の確率で　南海地震が… 新聞では小さい見出しの記事ですが、児童にとって大切な情報だとおもいます。

７月１９日愛媛

○　本日は１学期の終業式でした。

○　児童には、「夏休み中にしゅんびしておいたほうがいいもの」ということを、具体的な物を示して話しました。

ココ



地震被災宅地危険度判定士

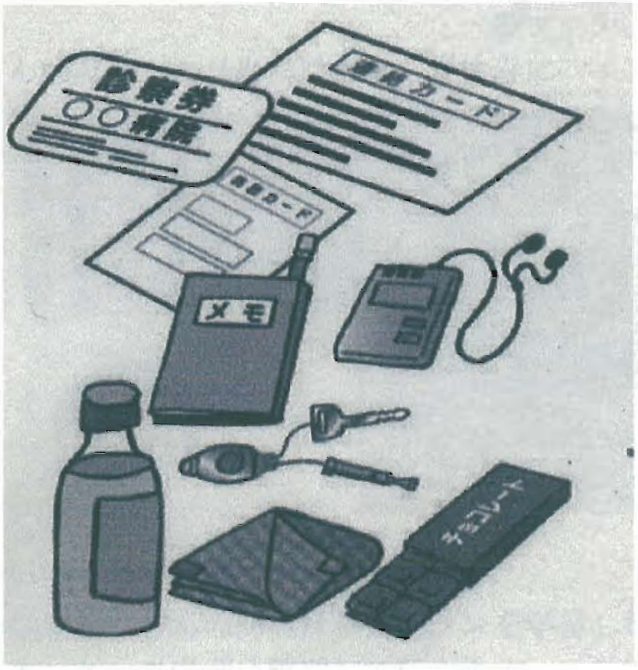
「南海」に備え94人受講

県講習会

大規模地震の発生直後に被災宅地の危険度を判定し二次災害の軽減防止を図る被災宅地危険度判定士の養成講習会が十八日、県庁であった。毎年一回開いており五回目。土木や建築の行政実務経験者など九十四人が受講。県被災宅地危険度判定協議会長の宇高史範県都市計画課長が「新潟県中越沖地震の復旧作業が行われる中で講習会が開かれる。本県でも三十年のうちに40％の確率で起こるとされる南海地震では、全壊八万棟、半壊二十万棟とも言われる。被災宅地の危険度判定体制を整えておく必要がある」とあいさつ。

全国宅地擁壁技術協会の喜多平明技術部長が「造成したばかりの場所など地震が起きた際の危険度を普段から想定しておかなければならない」

●「外出先でいつももっていたらいいもの」です。↓



●「家庭で常備しておくもの：あれば便利なもの」一覧です。→

●なければこまるものは、まとめで身近に置く。

①**スペアメガネ**、入れ歯　補聴器（ほちょうき）

いつも飲んでいる薬、通帳の控え番号メモなど

①ローソク（ガスマッチ）＋②ＬＥＤ付ランプ＋③水＋ ④はきやすいひもなしの運動靴

⑤革手袋

＜生石小学校　防災教育 はぶやまプランＮＯ６＞　児童用

「正しい知識は身を救う」

防災リュックサックあけてみました。

昨年のＰＴＡ会長角田さんよりお借りしたリュックサックです。

夏休み中にそろえておきたいもの　●かいちゅうでんとう　●ローソク

●マッチ（ガスマッチ）　●笛（ふえ）

こんな記事も先日みつけたよ。夏休みに　インターネットでしらべてみよう。

災害1日前にもどれたら…

「家具の転倒防止」「懐中電灯そばに」

もし、災害の1日前に戻れたらあなたは何をしますか――。地震など災害の被災者から聞き取った「教訓」が、内閣府のホームページに掲載されている。

最近の地震や水害の被災者約50人に災害時を思い出して、語り合ってもらい、出てきた話を地域や職場、家庭などさまざまな場面ごとにまとめた。

福岡沖地震（05年3月）で被災した50代の女性は、家具の転倒防止策の大切さを痛感した。本震で自宅の食器棚からグラスやカップが落ちて粉々になった。

新潟県中越地震（04年10月）の60代の男性は、懐中電灯やうちわをそばに置いておくことの大切さを感じた。「明かりがないと自分の家からも簡単に逃げられない」と振り返った。

内閣府は、今後も体験談を集めていくという。「一日前プロジェクト」のホームページは、http://www.bousai.go.jp/kiji/（大久保泰）

6月　朝日新聞記事より

「いつもそばに懐中電灯ダネ」

一学期たくさんの防災はぶ山プランを学習したね。 お礼や感謝　感想をいっぱいいただきました。二学期に整理して伝えます。一学期はこれで終わりです。

※二学期「はぶ山プラン」　●津波（ツナミ）を考えた避難訓練（避難訓練）

●災害（さいがい）伝言（でんごん）ダイヤル●地域の方によるアマチュア無線連携非常通信●災害ロボット実演(予定) ●「できたぞ　ぼくらの防災下敷き」防災クラブ作成●防災の専門家の「危険予知」(きけんよち) のお話　愛大矢田部先生　●おとしより、ねたきりの方、足が悪くにげるのが大変な方を救うには…　等を予定しているよ

夏休み六年生は最後だよ　一年生は初めてだね。…

＜生石小学校　防災教育 はぶやまプランＮＯ７＞　保護者用

科学　　ちいき　　いのち　　そなえ　　１２／２１

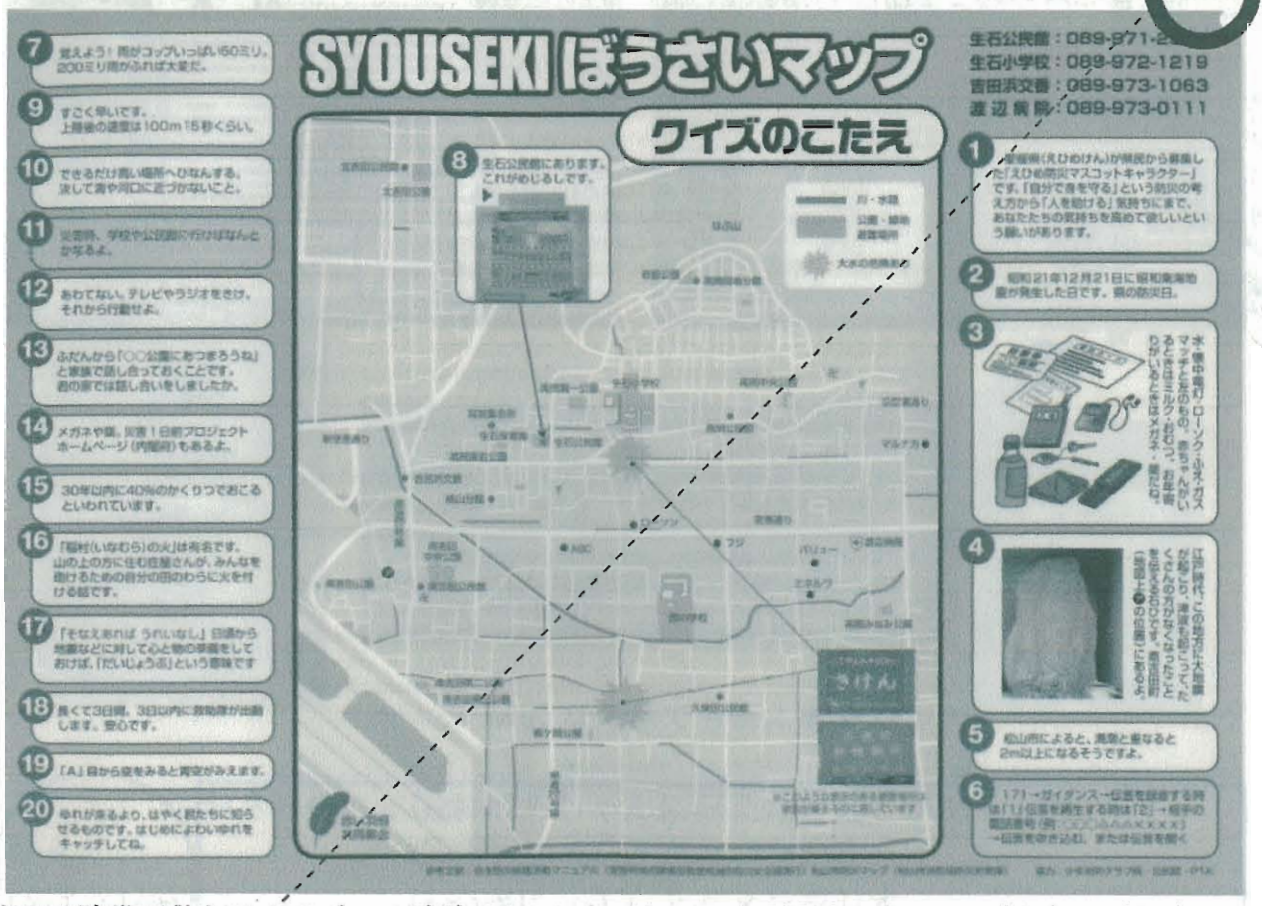
○お家の方と話そう　「冬休みにはなそう　伝言ダイヤル」

「 日頃からメモしておくといいです。伝言ダイヤルのかけかた」

Q知っていますか？　*生石の児童が中年(40～50才)になるまでに、40%の確率で　南海地震が…*

① 防災クイズは生石小の児童のためにつくりました。

② 防災マップ及びクイズの答えは「生石小学校区におすまいの方々も活用できるように。」との願いでつくりました。



※この防災下敷きは、でプロのデザイナーに加工していただきました。Ａ４版（ラミ加工）

※この防災下敷きは、松山市ＰＴＡ連合会（会長 角田さん）の協力をえました。

※この防災下敷きの制作費用の一部は、赤い羽根共同募金からいただきました。

※この防災下敷きは、防災チャレンジプランの予算を活用しました。

※制作費用の一部は、生石小ＰＴＡ（会長 和田さん）の防災書籍購入費も活用しました。

※この防災下敷き作成に当たっては、生石公民館（館長　関谷さん）の協力をえました。

※右上にリングがついていますので、目につく場所（居間や台所）にかけておくことが出来ます。

※残部少々ですが、必要な方は実費（１００円）でお渡しできます。

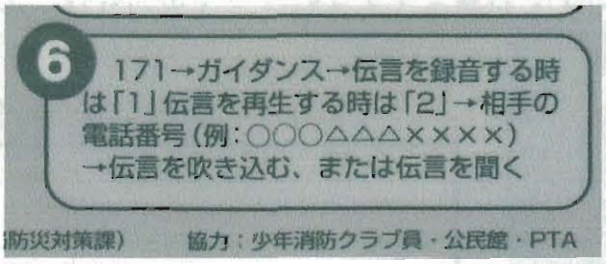
※学校では、１２月２５日２学期終業式に児童に渡します。

＜生石小学校　防災教育 はぶやまプランＮＯ７＞　児童用

できましたよ。防災したじき！！
伝言ダイヤルのかけ方について、冬休におうちの人とはなしあっておきましょう。！！

「見て、見て、このまんがは消防クラブ6年生がかいたものです。プロのイラストレータの方に色をぬっていただきました。まんがをかいた6年生のお友達すごいですね。」

Ｑ　伝言ダイヤルのかけ方をしっていますか。伝言ダイヤルについては「校長先生のおはなし」の中で説明しましたが、防災したしたじきの「マップ」にものせています。



← どのような電話でも使えますよ。→

伝えたい時はコレ→

おさらいＡ：①おばあちゃんに伝えたいことがあるとき
②「１７１」とボタンをおす
③つぎに「１」とボタンをおす
④「たろうです。だいじょうぶ」と言う。

聞きたい時はコレ→

おさらいＢ：①おばあちゃんからかかてくるかもしれない。
②「１７１」とボタンをおす
③つぎに「２」をおす
④「たろうさん。だいじょうぶかい」ときこえる。

伝言ダイヤルは、どこにいていてもやくにたちます。

＜生石小学校　防災教育 はぶやまプランＮＯ８＞　児童用

インターネットで（しょうわなんかいじしん）とうってみましょう。

１２月２１日は愛媛県にとって忘れられない日です。」
昭和（しょうわ）２１年１２月２１日は
昭和南海地震（しょうわなんかいじしん）がおきた日です。

もし　学校でお勉強が始まる５時間目に同じような地震がおきると…

愛媛県の県庁ではたらいている人が、予想をたてています。

松山市では

「たてもののしたじき」でなくなる方が	およそ６００人
「大けがをするひと」が	およそ２００人
Ｂ　「切りキズやすりキズ　包帯でてあてをする人」が	およそ１万３千人
Ａ「すむところをなくして体育館などにひなんする人」１日後	およそ９万人
「すむところをなくして体育館などにひなんする人」１週間後	およそ１０万人
「すむところをなくして体育館などにひなんする人」１ヶ月後	およそ６万人
「住んでいる家がぜんぶこわれる」	およそ１万２千こ
「住んでいる家が半分こわれる」	およそ４万こ

平成１２年に「松山に住んでいる人の数」をもとにして調べています。

平１２年度の松山市の人口が４７、３３７９人　およそ５０万人です。

Ａ もし体育館にですごす人が地震のあとでは、５０人中９人は体育館ですごすことになります。

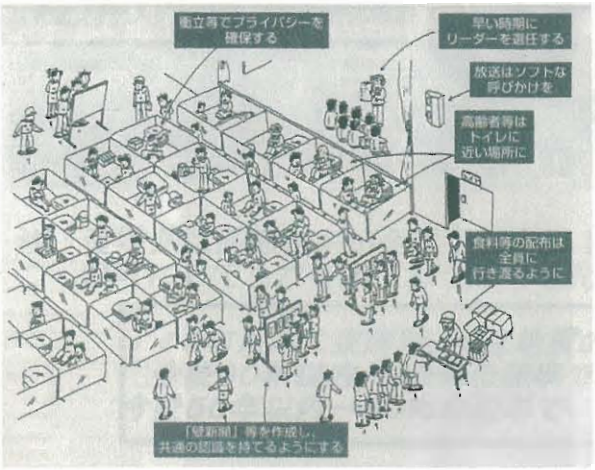
Ｂ ケガをする人は５０人に１人ということになります。

大切なのはこれからです、愛媛県はおじいさん・おばあさんの数が日本全体平均より１０年早く多くなっています。おじいさん・おばあさんの数は４人にひとりになるそうです。

Ｑ：君たちで出来ることはどのようなことでしょう。

自分のかんがえ：

生石小学校の体育館もひなんばしょになっているので、とつぜん、大地震がくるとイラストのようなことになるでしょう。それより津波が心配です。



まちがいさがしをしてね

したじきにはまちがいがありました
どこでしょう

こたえ

すべて日１２月２１○
くなはで日２１月２１×

児童に１２月２１日が　なぜ「愛媛県防災の日」なったのか説明しました。
本校の防災学習は「愛媛県自主防災組織マニュアル」を参考にしています。
下記資料を親子で冬休み中に読んでください。

4　発生の可能性が高い南海地震

(1) 2030年までの発生確率は40%

東海から四国にかけての海域を震源とする東南海、南海地震は、100年から150年の周期で繰り返し起こっています。

国の地震調査委員会の評価では、南海地震は、今後30年以内の発生確率が40%程度、今後50年以内の発生確率は80%程度で、その規模はM8.4前後と推定されています。

しかも、東海地震、東南海地震、南海地震は、同時あるいは時間的に接近して発生する可能性も指摘されており、その場合の地震規模はさらに大きくなるといわれています。

推定されている南海地震の震源域は、潮岬から室戸足摺岬までの長さ300km、幅100～150kmの領域と推定されています。兵庫県南部地震の断層領域が、長さが40km、幅は15km程度であったことと比較すると、非常に大きいことがわかります。

(2) 南海地震による建物被害

→被害想定表P28参照

阪神・淡路大震災が残した最大の教訓は、住宅の耐震化がいかに重要であるかということです。阪神・淡路大震災では、死傷者の9割以上は家屋損壊および家屋損壊による火災が原因でした。

また、倒壊した住宅の多くは、1981年（昭和56年）に改定された建築基準法以前に、建てられた建物であったことも分かっています。

愛媛県が実施した地震被害想定調査では、南海地震が発生した場合、愛媛県内では、建物全体の10.48%にあたる76,493棟が全壊、28.89%にあたる210,958棟が半壊することが予測されています。

南吉田の記念碑もこのあたりに発生した地震のことを後世に伝えようとしたのではないかと推測します。下記の表は児童用の説明のもとになったものです。

7　南海地震の被害想定

愛媛県では、活断層の分布状況や過去の地震履歴から、県内に大きな被害を与える可能性のある地震について、被害想定調査を行い、南海地震での建物被害、人的被害、ライフラインの被害を次のとおり発表しています。被害想定の結果を、有効な防災対策に役立てましょう。

■市町村別人的被害及び建物被害棟数〈発生時刻2時の場合〉

市町村名	世帯数 (H12国調)	夜間人口 (H12国調)	死者数		負傷者数		避難所人口			建物被害棟数			
			合計	うち建物倒壊	重傷者	中軽傷者	1日後	1週間後	1ヶ月後	全壊棟数	全壊率	半壊棟数	半壊
県合計	568,146	1,493,092	2,987	2,919	642	45,905	339,493	383,950	233,567	76,493	10.48%	210,958	28.
松山市	192,537	473,379	589	586	181	13,107	88,938	101,639	58,728	12,118	7.72%	40,889	26.

注：愛媛県は高齢化率が全国平均より１０年早くなっているとも言われています。
参考にしてください。おうちでも児童とともに話し合ってください。

４０年以内に東南海、南海地震の発生率が
今後30年以内→40%の確率でに
今後50年以内→80%の確率で　　M8．4前後と推定されています。

＜生石小学校　防災教育 はぶやまプランＮＯ９＞　児童用

科学　ちいき　ちしき　いのち　そなえ

アマチュア無線って知っていますか。？？

生石小学校の近く住む高橋寛さんにお越し願い、放送室から給食後に実際に電波を出し、災害とアマチュア無線について説明してもらいました。

もしも、大地震（だいじしん）や大津波（おおつなみ）がおそったら、
その時に力をだすのがアマチュア無線です。
↓家の電話もつかえなくなりました。
↓携帯電話も使えなくなりました。
↓助けてもらいたいお年寄りが山にいます。
↓山がくずれ道が通れない！電気も止まりました。
↓みなさんならどうしますか。
↓愛媛県災害対策本部長（愛媛県知事）から無線機を使うお許しがでたとき、災害（さいがい）に通信連絡の方法として活躍するのがアマチュア無線免許を持っている方です。無線機が役に立つわけです。

高橋さん　ありがとう。

「これがその時に使われる小型携帯無線機のひとつです。相手の方が５０km以上離れていても連絡できます。家庭の電気が止まって使えない時、携帯電話と同じように、電池をエネルギーとして使います。」

実際に電波を出して、相手のアマチュア無線局を呼び出す実験をしました。
生石小学校放送室（JA5IDH 高橋さん）と 東温市（JA5BTW　和田さん）
松山市内（JA5BED　永田さん）を電波で結んで話し合いました。

注：アマチュア無線は免許が必要です。国家試験ですが誰でも受験できます。
　くわしくは、インターネットで「ＪＡＲＬ」と打ってみてね。
注：携帯電話とアマチュア無線機とはつながりません。
　わけを聞きたい人は校長室に来てください。
注：高橋さんは日本アマチュア無線連盟　愛媛県支部長です。（ＪＡ５ＩＤＨ）
注：アマチュア無線に興味がある方は校長室に来てください。校長先生も免許もってます。
　※無線機は一度購入すると、故障しない限り一生使えます。

＜生石小学校　防災教育 はぶやまプランＮＯ９＞　保護者用

携帯電話が主流の現在でもアマチュア無線は趣味の一つとして人気が衰えません。アマチュア無線はその性格上、同じ免許を持っている遠く離れた方と自由に交信することが主たる目的です。

しかし、大災害が発生すれば、①他地域から災害地への通信は困難になります。
②災害地は電気が復旧するまで通信が出来なくなるおそれがあります。
③携帯電話はかかりにくくなります。

これが携帯電話のアンテナです。（８００Ｍｈｚ）

そのため、知事の要請を受けたアマチュア無線局が自分の無線機で「非常災害」に活動することが出来るようになるというわけです。

△　携帯電話は、通信基地を経由して相手に通じるしくみですので、通信基地やアンテナがこわれると使えなくなります。
○　アマチュア無線局は（知事の要請を受けたとき）直接に無線局同士とまた間接的には山頂など中継基地を介して災害救助活動に対応することが出来るようになっています。（４３０Ｍｈｚ）

右写真は平成１９年度総合防災訓練（愛媛県）における
○「南伊予アマチュア無線クラブ」開設訓練の様子です。→
○アマチュア無線連盟愛媛県支部では昭和４８年に非常災害における通信体制の協力に関する協定を結び現在に至っているそうです。
○毎年９月１日に愛媛県総合防災訓練を実施しています。
○毎年２月に愛媛地区非常通信訓練を実施しています。

高橋さんより提供

左写真は阪神淡路大震災の時の写真です。
←このときは大勢のアマチュア無線が要請を受け、災害救助活動に対応する無線通信をボランティアで実施しました。
重要な連絡手段になったわけです。
（wikipedia 阪神淡路大震災より）

高橋さんからの伝言です。

校長先生の指導でアマチュア無線による通信実験をみなさんに見てもらいました。大規模災害で一般公衆回線が途絶したときの通信手段として、アマチュア無線が役立つ事を理解してもらったと思っております。南海地震は30年以内に50％の確率で発生すると言われております。防災は日頃の心構えが大切です。ご家庭においても家具などの転倒防止など出来ることから始めることが大切だと思います。

※感想や要望があればかいてください。要望にお応えする防災学習こそ重要です。

キ　リ　ト　リ

話し合ったら　この紙を学級担任に出してください。（はぶやまプランＮＯ５）

話し合いました。　　（　　）年（　　）組　児童氏名

感想

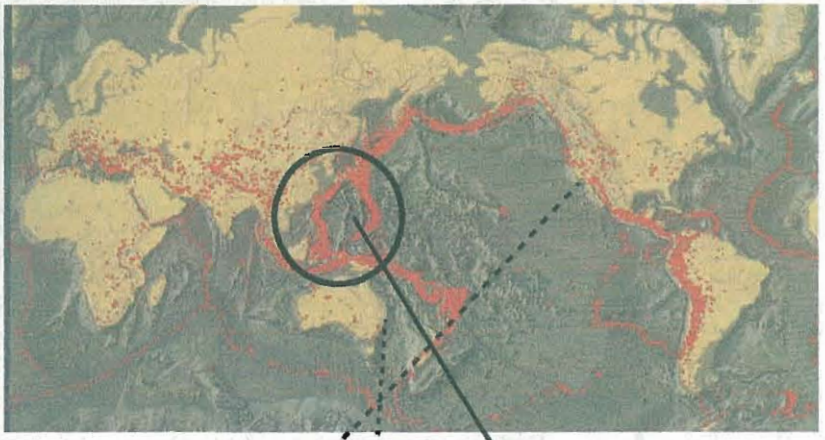
＜生石小学校　防災教育 はぶやまプランＮＯ１０＞　児童用

科学　　ちいき　　ちしき　　いのち　　そなえ

大学の先生に校長訓話の時間におはなししてもらました。
「地震はなぜ起きるのですか。知っていますか。」？？

愛媛大学（えひめだいがく）の高橋治郎先生（たかはしじろうせんせい）は地震（じしん）についてお話ししてくれました。

災害はわすれたことろにやってきます。



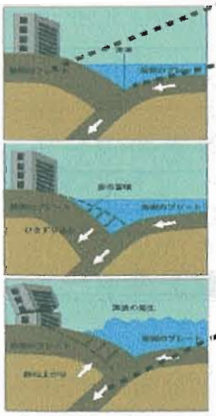
高橋治郎先生は、地質（土地の様子）の 専門家（せんもんか）です。
愛媛大学の附属中学校の校長先生です。

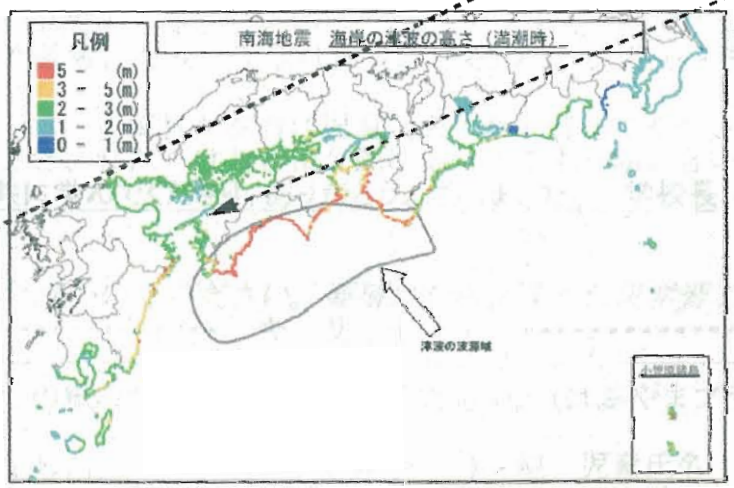
高橋先生：右の世界地図（せかいちず）を見てください。ここが日本です。日本を取り巻いてる点々　これは地震が起きたところを示しています。日本は地震で取り囲まれているのですよ。

生石太郎君：うわー　これなら日本に地震が多いわけだよ。

高橋先生：見てください。アメリカやオーストラリヤも地震が起こっているね。
地震というのは、下の図のように土地が動く時に起こるのですよ。
四国がここだとすると…太平洋の海の底が四国にもぐりこんでいます。
このもぐりこみにより、四国の土地がバネのようにもどろうとした時、起こるのが地震ですよ。

高橋先生：下の図を見てください。生石小学校はここです。





このあたりは南海地震がくると海が満潮（まんちょう）のときと重なればツナミが**２－３**ｍになるのでこわいのです。

新潟地震の写真を高橋先生は見せてくださいましたね。

太郎君：よく分かりました。ありがとうございました。

高橋先生：**「災害はわすれたことろにやってきます。」**

＜生石小学校　防災教育 はぶやまプランＮＯ10＞　保護者用

地震が起こったところを点で表した地図をみると、日本はぐるりと取り囲まれていることが分かりました。はいつも、日本のあちらこちらで地震がおこるのも納得できます。

ここに注目して下さい。

３０年以内に震度６弱以上のゆれに見舞われる確立
松山は約２２％

児童が１０歳なら中年４０歳になるまでに起こることになります。

いま小学校の教育課程では、防災にふれる場は皆無です。火災避難訓練を年に３回するの防災訓練だと思っている学校が多い現状では、命が守れません。

朝日新聞　2007年(平成19年)4月19日

30年以内に震度6弱以上
東海から四国 確率上昇
予測地図公表

政府の地震調査研究推進本部は18日、全国各地で、どれほどの確率で地震が発生する恐れがあるかを示した07年版の「地震動予測地図」を公表した。06年版に比べ、東海から四国、九州東部、沖縄地方で今後30年以内に震度6弱以上の地震が起きる確率が上がった。

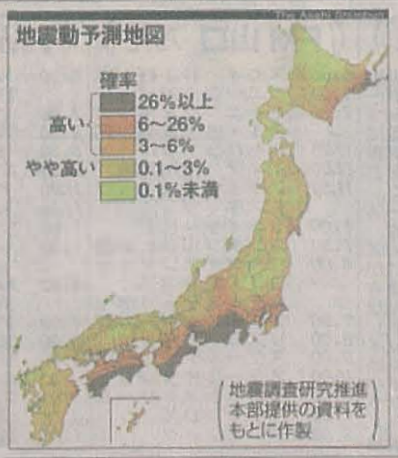
東海から四国の確率上昇は、1年が過ぎたことに伴い、予測に使った東南海、南海地震の発生確率がそれぞれ64％（前年62％）、53％（50％）に上がったことが影響した。西南日本ではプレート（岩板）内での地震波の特殊な伝わり方を反映させたことで九州東部や沖縄で確率が上がり、九州西部と山口県西部ではわずかに下がった。

この結果、那覇は30年以内に震度6弱以上の地震が起きる確率が15・4％（10・2％）に、高知が52・3％（50・1％）、和歌山は34・1％（33・2％）、名古屋は37・1％（36・5％）になった。主要都市では静岡の86・5％が最も高い。

予測は今年1月1日が基準で、3月の能登半島地震や今月15日の三重県北部の地震は反映されていないが、考慮しても周辺で発生の恐れがある大地震の影響の方がずっと大きく、目立った違いは生じないという。

同本部は各種の統計に基づき、30年以内に個人が災難に遭遇する確率の例として、大雨災害0・5％、すり0・58％、強盗0・16％などを挙げ、地震の確率が1％以下でも低くないことを強調。「能登半島地震も比較的確率が低い地域で起きており、日本はどこでも地震に対する警戒が必要」と注意を促した。地図は同本部ホームページ（http://www.jishin.go.jp/）に掲載される。

地震動予測地図



30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（%、地震調査研究推進本部による）

札幌	0.5
青森	1.3
盛岡	0.2
仙台	2.8
秋田	1.6
山形	2.4
福島	0.1
水戸	8.3
宇都宮	0.3
前橋	0.9
さいたま	12.0
千葉	27.1
東京(新宿)	11.4
横浜	32.7
新潟	3.3
富山	2.6
金沢	1.0
福井	1.4
甲府	82.0
長野	5.7
岐阜	7.9
静岡	86.5
名古屋	37.1
津	61.3
大津	7.1
京都	6.4
大阪	22.5
神戸	8.0
奈良	15.7
和歌山	34.1
鳥取	0.8
松江	0.8
岡山	8.7
広島	9.7
山口	0.6
徳島	44.9
高松	20.6
松山	21.8
高知	52.3
福岡	0.6
佐賀	0.5
長崎	0.7
熊本	2.0
大分	15.0
宮崎	13.0
鹿児島	3.7
那覇	15.4

※「いつか学校でそのようなことをいってなあ。」それでいいのです。
※今の保護者は高齢者になり、児童は大人になるのです。生石小校区は、津波が怖いのです。
※いままでのモジュール資料を参考に児童と必ず話し合ってください。
「災害がおきたとき、私たちは北吉田公園にあつまるよう話し合いました。」感想より
※一年間児童と共に学んでくださり、ありがとうございました。　学校長

※感想や要望があればかいてください。要望にお応えする防災学習こそ重要です。

キ　リ　ト　リ

話し合ったら　この紙を学級担任に出してください。（はぶやまプランＮＯ１０

話し合いました。　　（　　）年（　　）組　児童氏名

感想

SYOUSEKI ぼうさいマップ

生石公民館：089-971-2975
生石小学校：089-972-1219
吉田浜交番：089-973-1063
渡辺病院：089-973-0111

7 覚えよう！雨がコップいっぱい50ミリ。200ミリ雨がふれば大変だ。

9 すごく早いです。上陸後の速度は100m 15秒くらい。

10 できるだけ高い場所へひなんする。決して海や河口に近づかないこと。

11 災害時、学校や公民館に行けばなんとかなるよ。

12 あわてない。テレビやラジオをきけ。それから行動せよ。

13 ふだんから「○○公園にあつまろうね」と家族で話し合っておくことです。君の家では話し合いをしましたか。

14 メガネや薬。災害1日前プロジェクトホームページ（内閣府）もあるよ。

15 30年以内に40%のかくりつでおこるといわれています。

16 「稲村（いなむら）の火」は有名です。山の上の方に住む庄屋さんが、みんなを助けるための自分の田のわらに火を付ける話です。

17 「そなえあれば うれいなし」日頃から地震などに対して心と物の準備をしておけば、「だいじょうぶ」という意味です

18 長くて3日間。3日以内に救助隊が出動します。安心です。

19 「A」目から空をみると青空がみえます。

20 ゆれが来るより、はやく君たちに知らせるものです。はじめによわいゆれをキャッチしてね。

クイズのこたえ

1 愛媛県（えひめけん）が県民から募集した「えひめ防災マスコットキャラクター」です。「自分で身を守る」という防災の考え方から「人を助ける」気持ちにまで、あなたたちの気持ちを高めて欲しいという願いがあります。

2 昭和21年12月21日に昭和南海地震が発生した日です。県の防災日。

3

水・懐中電灯・ローソク・ふえ・ガスマッチと左のもの。赤ちゃんがいるときはミルク・おむつ。お年寄りがいるときはメガネ・薬だね。

4

江戸時代、この地方に大地震が起こり、津波も起こって、たくさんの方がなくなったことを伝える石ひです。南吉田町（地図上アの位置）にあるよ。

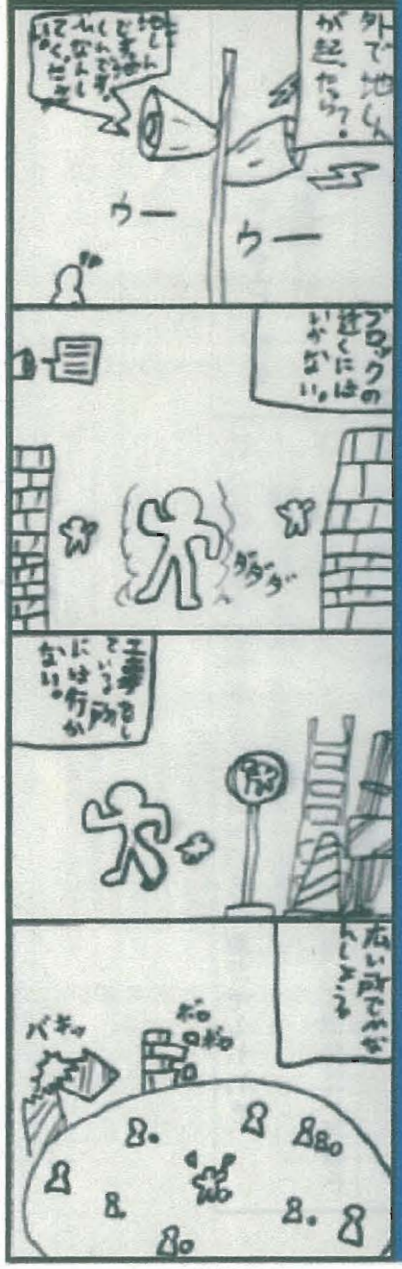
5 松山市によると、満潮と重なると2m以上になるそうですよ。

6 171→ガイダンス→伝言を録音する時は「1」伝言を再生する時は「2」→相手の電話番号（例：○○○△△△××××）→伝言を吹き込む、または伝言を聞く

参考文献：自主防災組織活動マニュアル（愛媛県県民環境部管理局消防防災安全課発行）松山市防災マップ（松山市消防局防災対策課）　協力：少年消防クラブ員・公民館・PTA

生石太郎君の防災クイズ

地震警報



1. このキャラクターを知っていますか？

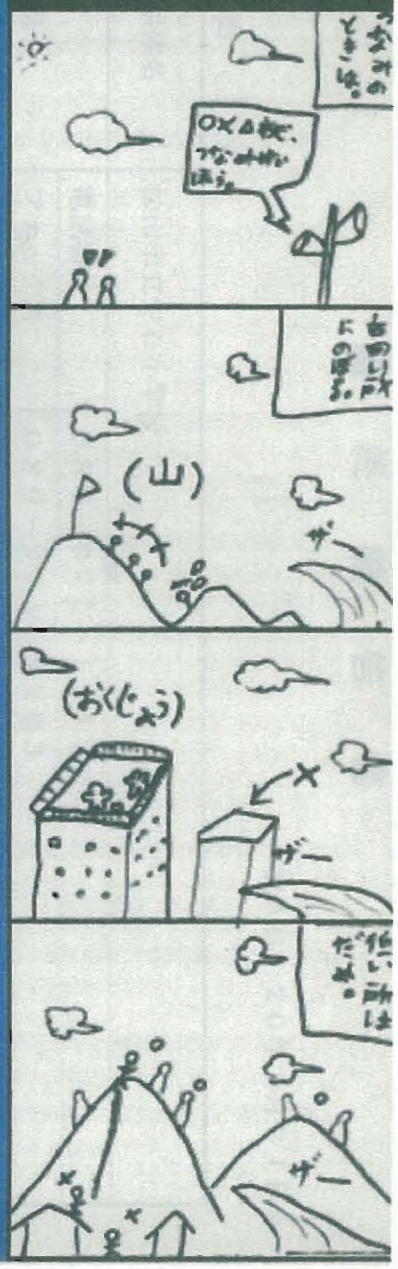
2. 12月12日は何の日ですか？
3. 家で準備しておくものは何？
4. ツナミがあったと知らせる石ひはどこにあるの？
5. もし東南海地震が来たとき最高で何mくらいのツナミがくると言われている？
6. 災害伝言ダイヤルのかけ方は？
7. 何ミリ連続で大雨が降れば大変になる？
8. 無料で飲料水を配ってくれる場所はどこ？
9. ツナミの速さって知ってる？
10. ツナミ予報・ツナミ警報がでた。さあ、あなたならどうする？
11. 旅行中に被害にあったら、どこに行く？
12. 地震が起きたらまずどうする？
13. 災害があったとき、家族が集まる場所決めている？それはどこ？
14. 地震が起きる1日前にあったらいいものは？
15. 南海地震「○○年中に△△%で起こるかもしれない」と言っていたかな？
16. 紙芝居「稲村の火」はどんな話？
17. 「そなえあれば○○○なし」○○○の言葉は？
18. 大地震にあった。何日がまんすれば救助隊が来る？
19. 台風の目はどれ？

20. 「きんきゅう地震そくほう」って知ってる？

赤い羽根
共同募金

松山市立生石小学校　電話972-1219

ツナミ警報だ!!



2007年度防災教育チャレンジプラン
最終報告書

記入日　２０年１月２１日

１．概要

実践団体名	松山市立生石小学校	
連絡先	電話番号	０８９－９７２－１２１９
	ファックス	０８９－９７１－９９０３
	メールアドレス	Tatsuishi-yasus@esnet.ed.jp
プランタイトル	自分の身を守る「はぶ山」防災プラン	
目的	○過去に津波で災害が起きていることを教訓にして、自分の地域における防災を考えさせる。 ○ 特別な防災教育課程を取り入れず、１５分モジュール学習を年間積み上げていくことで、防災意識の高揚をはかる。 ○ 家庭（保護者）と連携を密にするために、１５分モジュール家庭版を配布し児童と保護者が双方向で防災について考える場を設定する。	
プランの概略	○ 歴史・地域・命・備えについて児童用・保護者用のＡ４学習シートを作成し防災学習を推進する。 ○ 防災について日常的啓発する資料「生石太郎君の防災クイズ」を下敷きにして全家庭、公民館、愛媛県防災危機管理課に配布する。	
プランの対象	○ 生石小学校児童及び保護者　公民館関係者　生石小学校ＰＴＡ	
実施日時	２００７年４月～２００８年１月	
実施場所	松山市立生石小学校	
連携した団体	連携団体の有無	○ 有
	連携した団体	○ 松山市ＰＴＡ連合会 ○ 松山市生石公民館及び全分館 ○ ＪＡＲＬアマチュア無線愛媛県支部 ○ 赤い羽根共同募金
	連携したきっかけ・理由	○ １５分モジュール学習を推進するには、各種団体に実験や講話をして頂く必要があったため。 ○ 防災下敷き作成費用の一部支援の必要があったため。

2007年度防災教育チャレンジプラン
最　終　報　告　書

	連携団体へのアプローチ方法	○　Eメールによる方法 ○　実施計画プランを提示し直接校長がお願いする方法。
	連携団体との打ち合わせ回数	○各団体と平均２回の事前打ち合わせ
	連携団体との役割分担	○直接指導及び資料提供 ○実験や資料作成のアドバイス

２．プランの立案過程

プラン立案メンバーの人数と役割	団体内のスタッフ総人数	６名
	外部スタッフの総人数	約１０名
	主なメンバーの役職・役割	○　公民館館長、ＰＴＡ連合会会長 ○　愛媛県危機管理課（資料提供） ○　愛媛大学防災センター（森治郎先生） ○　生石保育園（津波警報発令避難訓練）
プラン立案に要した日数・時間	立案期間	○２００７年４月～２００８年１月　学習実施ごとに
	立案時間	○実施平均４時間（モジュール資料作成も含む）
	上記のうち打ち合わせ時間	○実施毎平均１時間
プラン立案で注意を払った点	○　地域防災として今後、児童が大人になる時に役立つ学習かということに細心の注意をはらった。	
プラン立案で苦労した点	○学校行事や日々の教育課程、研究会等の日程が年間計画で設定されているため事前の話合いの調整が難しかった。 ○　外部講師と日程の調整が難しかった。 ○　教務主任と防災担当（少年消防クラブ担当）と管理職が会合を持つ時間の確保が難しかった。	

2007年度防災教育チャレンジプラン
最終報告書

3．実践にあたっての準備

準備に関わった方と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	６名
	外部スタッフの総人数	１０名
	主なメンバーの役職・役割	○ 公民館館長、ＰＴＡ連合会会長 ○ 愛媛県危機管理課（資料提供） ○ 愛媛大学防災センター（森治郎先生）
準備に要した日数・時間	準備期間	○ １学期分：２００７年４月 ○ ２学期分：２００７年９月 ○ ３学期分：２００７年１２月
	準備総時間	２０時間
	上記の打ち合わせ回数	１５回
教育関係への働きかけ	働きかけた教育関係者・機関名	松山市ＰＴＡ連合会（松山市教育委員会　地域学習課） 生石保育園
	どのように働きかけたか	各学校で地域防災学習を実施する時、参考になる資料として「防災下敷き」を提供した。
	結果	好評であった。（松山市教育委員会教育長）
地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	生石公民館及び各分館
	どのように働きかけたか	公報及び具体的な資料の配布を通じて働きかけた。
	結果	老人や児童がいない家庭にも資料（情報）を届けるようなシステムをつくり、自主防災組織活動に役立てたいという申し出があった。
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	松山市立生石小学校ＰＴＡ
	どのように働きかけたか	毎回、児童が学習した学習モジュールを家庭配布する時、併せて児童が実践した内容を保護者向けにアレンジしたものを配布する方法

2007年度防災教育チャレンジプラン
最終報告書

	結果	学校外部評価（２００７年１２月）実施にも生石小学校防災学習「はぶやまプラン」は大変家庭でも役立っているとの記述が多数あった。
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	デジタルカメラ　プロジェクター　パソコン
	入手先・入手方法	生石小学校（借用）
	機材教材の選定理由	本校の備品
参加者の募集	募集方法	週報（週案）の予告による
	募集期間	毎回
	参加予想人数	児童９６７名及び教職員４５名、生石保育園年長児２０名
	実際の参加人数	総計１０００名
	募集方法の成功点	全児童には週報を通じて知らせたこと。 他団体にはメール配信により知らせたこと。
	募集方法の失敗点	なし
準備で苦労した点工夫した点	苦労点：防災下敷き作成のための資金捻出が一番苦労したが、下記の団体からの協力で実現した。 ① 赤い羽根共同募金からの援助 ② ＰＴＡ連合会スタッフが専門のイラストレータを紹介してくれ格安で作成できたこと。 ③ 生石小学校ＰＴＡ廃品回収資金の一部捻出により作成できたこと。	

2007年度防災教育チャレンジプラン
最終報告書

4．タイムスケジュール

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2007年 5月	○生石小学校ＰＴＡ総会資料を基にした年間プラン発表	○ＰＴＡ総会における資料「本校は今年度はこんなことをします」資料の印刷及び全保護者配布とプレゼンテーション	体育館における校長講話にてプラン実施・協力のプレゼンテーション
2007年 6月	○教材開発 資料着手	○はぶやまプラン実施プロジェクトメンバーによる教材開発・検討 ○消防クラブ児童との連携方法について討論	○第１回実施「ひとの命を奪うのは…」クイズ形式の学習 ○第２回実施「ツナミを知っていますか」外部講師による学習
2007年 7月	○教材開発	○消防クラブ担当教諭のイラスト準備とレイアウト編成	○第３回実施「大雨、梅雨の季節」校区の河川氾濫場所の学習 ○第４回実施「泥水パワー」実験学習 ○第５回実施「新潟地震から学ぶ」水の大切さについての学習 ○第６回実施「防災リュック」を備える必要について学習
2007年 8月	○２学期ツナミを想定した避難訓練について計画・準備	○教務主任による立案 ○運営委員会における検討	○ツナミを想定した避難訓練実施要領説明（全職員及び生石保育園）
2007年 9月	○防災の日にちなんで「ツナミ」を想定した避難訓練	○児童９６７名及び生石保育園児連動で校舎２階以上に逃げる訓練の図上理解練習	○ツナミを想定した避難訓練実施 全職員及び生石保育園 ○地元、南海放送及びテレビ朝日報道
2007年 10月	○防災下敷き制作検討・試作	○消防クラブ員のよる防災漫画の募集、 ○ＰＴＡ連合会との連携 ○イラストレータとの連携 ○愛媛県危機管理課との情報交換	○防災下敷き印刷形式　完成と配布

2007年度防災教育チャレンジプラン
最　終　報　告　書

2007年 11月	○防災下敷きの活用及び検討 ○ラミネート化検討	○大型マップ形式の防災下敷き掲示資料作成と公民館への配布	○防災下敷き ラミネート形式１２００部完成
2007年 12月	○防災下敷きの児童活用について検討 ○伝言ダイヤルや南海地震について実習する方法を検討	○活用方法について全児童に伝える場の検討	○１２月２１日終業式の日にプレゼンテーションする。保護者にも活用の仕方について知らせる。 ○第７回実施「伝言ダイヤル」や南海地震について伝える学習 ○第８回実施「南海地震」の学習
2008年 1月	○アマチュア無線について実演企画依頼 ○地震の起きる仕組みについて講話依頼 ○実践のまとめ	○携帯電話が使えなくなった時の連絡方法についてＪＡＲＬに依頼 ○地震のおきる仕組みについて全校児童に講話依頼 ○実践のまとめと報告準備	○第９回実施「ＪＡＲＬによる非常災害通信模擬実験公開」 ○第１０回実施「愛媛大学防災センター」に指導講話依頼、高橋治郎教授によるプレゼンテーション ○第１１回実施卒業記念「１ＣＨ防災ＡＭラジオ」の制作

2007年度防災教育チャレンジプラン
最終報告書

5．実践の詳細【A．素材】　（メインとなる活動を45分1コマとして記入してください）

タイトル	ＰＴＡ総会における発表	はぶやまプラン1	はぶやまプラン2	はぶやまプラン3
実施日	5月	6月	6月	7月
所要時間	５０分	４５分	４５分	４５分
達成目標	○ＰＴＡに直接防災の重要性について訴えることにより協力を促す。	○地震により命を失う原因の一番は何かをクイズ形式で学習する。（全校）	○外部講師によるツナミについて資料や歴史から全校に伝える。（公民館長）	○防災ハザードマップを活用しての河川氾濫場所について知らせる。
生成物	ＰＴＡ総会資料	モジュール学習資料（1）	モジュール学習資料（2）	モジュール学習資料（3）
進め方（箇条書き）	プレゼンテーション	資料を基に教師が児童の実態に応じて学級活動で実施	プレゼンテーション	全校テレビ放送
ツール（特別に用意したもの）	総会資料及びツナミの記念碑写真	モジュール学習資料	地域の地図とツナミ到来ラインの資料や記念碑の写真	防災ハザードマップ
場所	体育館	各教室	体育館	放送室と各教室

5．実践の詳細【B．イベント】　（メインとなる活動を45分1コマとして記入してください）

タイトル	避難訓練	避難訓練	生石タイム	生石タイム
実施日	6月	9月	7月	１２月
所要時間	４５分	４５分	４５分（１５分×３）	６０分（１５分×４）
達成目標	○校舎火災を想定した全校避難訓練を実施し、火災時の避難誘導が適切に行われることを目的とする。	○東南海地震　伊予灘に発生したツナミが到来することを想定した訓練を実施し、避難誘導が適切に行われることを目的とする。	○雨時における泥水パワーの実験（１５分） ○新潟地震から学ぶ学習（１５分） ○防災リュックサックの備えについての学習（１５分）	○伝言ダイヤルについて実験講話（１５分） ○南海地震から学ぶ学習（１５分） ○アマチュア無線についての学習（１５分） ○　地震のおきる仕組みについて大学教授講話
生成物	避難実施マニュアル	避難実施マニュアル モジュール学習資料	防災リュックサックの見本と展示　流水実験と理科学習との連携	無線機の展示 防災下敷きの作成配布
進め方（箇条書き）	実施要領による 教頭主導	実施要領による 教頭主導	モジュール学習資料による。	モジュール学習資料による
ツール（特別に用意したもの）	避難実施要領	避難実施要領	実物 流水・堆積実験装置	公開非常通信模擬実験 プレゼンテーション
場所	運動場	運動場と二階以上の教室廊下（避難場所）	体育館及び各教室	体育館 各教室　放送室 松山市街　日赤（東温市）

2007年度防災教育チャレンジプラン
最終報告書

5．実践の詳細【C．総合的な学習時間】　（メインとなる活動を45分1コマとして記入してください）

タイトル	卒業記念製作			
実施日	3月予定			
所要時間	45分×2　90分			
達成目標	○6年生理科学習の発展教材としてコイル等を応用した1chAMラジオを製作させる。			
生成物	1chAMラジオ			
進め方（箇条書き）	製作マニュアルによる			
ツール（特別に用意したもの）	1chAMラジオキット			
場所	工作室 理科室			

2007年度防災教育チャレンジプラン
最終報告書

<table>
<tr><td>全体の感想と
反省・課題</td><td colspan="2">○ １年間モジュール学習やイベントを通じて防災について、特に地域防災について取り組んできたが、児童及びＰＴＡには十分その必要性が浸透できた。
○ 携わる教職員には温度差があったが、教務主任や管理職が中心となって実施することより、時代の緊急性を訴えることが出来た。
○ 松山市の他校の魁となり、次年度以降他校もこの方法を活用する学校が現れたこと。
○ イベントや学校行事では一過性の学習となりやすいが、定期的にモジュールという方法で学習したことは、それなりに効果があった。
○ 学習後資料をもとに家庭で話し合い、話し合ったことを学校に報告し、それを次回の学習に織り込んでいくというシステムは好評であった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">今後の予定</td><td>来年度以降の
取り組み方</td><td>○ 発案した管理職（校長）は今年度退職するが、教頭や教務主任に、「必要な学習は定期的に実施することが望ましい。」と引き継ぎ、次年度も実施するよう促したい。</td></tr>
<tr><td>ぜひ実施して
みたい取り組み</td><td>○ 地域自主防災組織やアマチュア無線と連動したツナミ想定避難訓練（ツナミが押し寄せた歴史があるので）</td></tr>
<tr><td>自由記述</td><td colspan="2">○ 次期学習指導要領には歯止め規定が廃止され「防災についての学習」の実施が可能となっている。東南海地震が確率的に高くなっている現在、真剣に防災について考え、児童が大人になった時を想定して学校現場は防災学習に力を入れる必要があると痛感する。しかし松山市内の学校（島しょ部、海岸部、市街地）の校長（管理職）は全く無防備、無関心である。これではどうしようもない。算数・国語の授業が防災よりウエイトが高いという考え方を少しでも打破しなければ、一年間学習を続けることは困難である。
○ 防災学習は、管理職によって意識の違いが大きい学習である。管理職の意向により「防災学習は特設してもしなくてもいい学習である。」という雰囲気が根強い。ここに一番問題点があるように感じる。
○ 学校には厳然とした教育課程があるので、その中にどう割り込んで特設しているか、前年度末に企画・立案しておかなければならないと感じた。
○ 単なる避難訓練を防災学習と考える学校が多い現実がある。</td></tr>
</table>

2007年度防災教育チャレンジプラン
最終報告書

6．実施後

参加者へのアンケート結果	○「いつもモジュールについて家庭で話し合い、緊急な時どこに家族全員が集合するか決めている。」 ○「水について特に緊急非常用の水が公民館に確保しているとは知らなかった」など防災モジュールや防災クイズの有効性を再認識している保護者が多かった。（別冊資料参考）	
成果として得たこと	○ 防災下敷き「生石太郎君の防災クイズ」が松山市内の小学校の先駆的役割を担ったこと。 ○ 地域防災について児童が昨年度より関心を持ち始めたこと。 ○ 保護者が児童と家庭で話し合い、共通の話題ができはじめたこと。 ○ 保育園と連携した避難訓練（９月）ができはじめたこと。	
成果物	○ ツナミを対象とした緊急避難マニュアル ○ 防災下敷き ○ 防災学習モジュール（資料　児童用と保護者用計２２シート）	
広報方法	広報した先	ＮＨＫ松山放送局 ＥＡＴ朝日放送 ＲＮＢ南海放送 ＥＢＣテレビ愛媛
	広報の方法	電話及びＥメール
	取材に来たマスコミ	毎日新聞松山支局
	広報された内容	活動の様子
	成功点	地域に実践の様子を知らせることができた。
	失敗点	防災下敷きなど児童が現場で作成している様子が伝えられなかったこと。